



2018年度上期 決算説明会

2018年11月9日



朝日工業グループ

(証券コード 5456)

2018年度上期決算概要

2018年度上期損益計算書（連結）

- 未だ苦境を脱せず

● 売上高 1 8 , 4 6 3 百万円

● 営業利益 ▲ 5 4 6 百万円

● 経常利益 ▲ 5 7 3 百万円

● 当期利益 ▲ 7 9 0 百万円

連結損益前年比較

- 赤字幅拡大

(百万円)	2017年度 上期	2018年度 上期	差異
売上高	16,592	18,463	1,871
営業利益	▲ 103	▲ 546	▲ 443
経常利益	▲ 17	▲ 573	▲ 555
経常利益率	▲ 0.1%	▲ 3.1%	-
当期利益	▲ 261	▲ 790	▲ 529

セグメント別利益

- 鉄鋼、農業共に悪化

(百万円)

セグメント利益	2017年度 上期実績	2018年度 上期実績	差異
鉄鋼建設資材事業	114	▲ 131	▲ 246
砕石砕砂・ マテリアルサイクル事業	60	67	7
農業資材事業	374	79	▲ 294
連結合計	▲ 103	▲ 546	▲ 443

連結貸借対照表

- 純有利子負債は計画通り推移

(百万円)	2018年3月末	2018年9月末	差異
流動資産	17,854	17,757	▲97
固定資産	12,578	12,933	354
総資産	30,433	30,690	257
負債計	22,560	23,613	1,052
純資産	7,872	7,077	▲795
純有利子負債	7,195	7,339	143
現預金	4,238	4,921	682
有利子負債	11,434	12,260	826

連結キャッシュ・フロー

- 必要な戦略投資を着実に実行

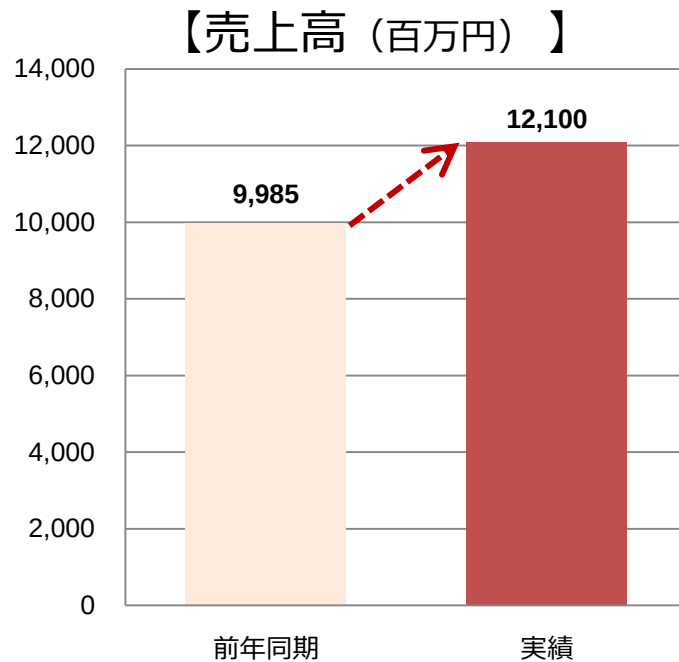
(百万円)	2017年度 上期	2018年度 上期	差異
営業活動によるC F	1,205	566	▲ 639
投資活動によるC F (有形固定資産取得)	▲ 397 (▲ 387)	▲ 666 (▲ 634)	▲ 269 (▲ 247)
財務活動によるC F	972	794	▲ 178
現金及び現金同等物 の期末残高	5,118	4,921	▲ 197

鉄鋼建設資材事業

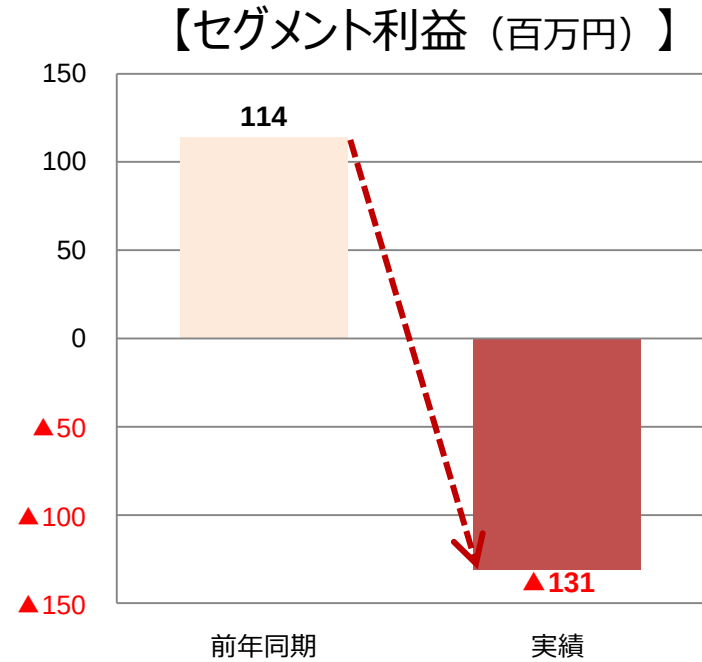
－実績－

増収減益

- 販売単価アップで増収も大幅減益



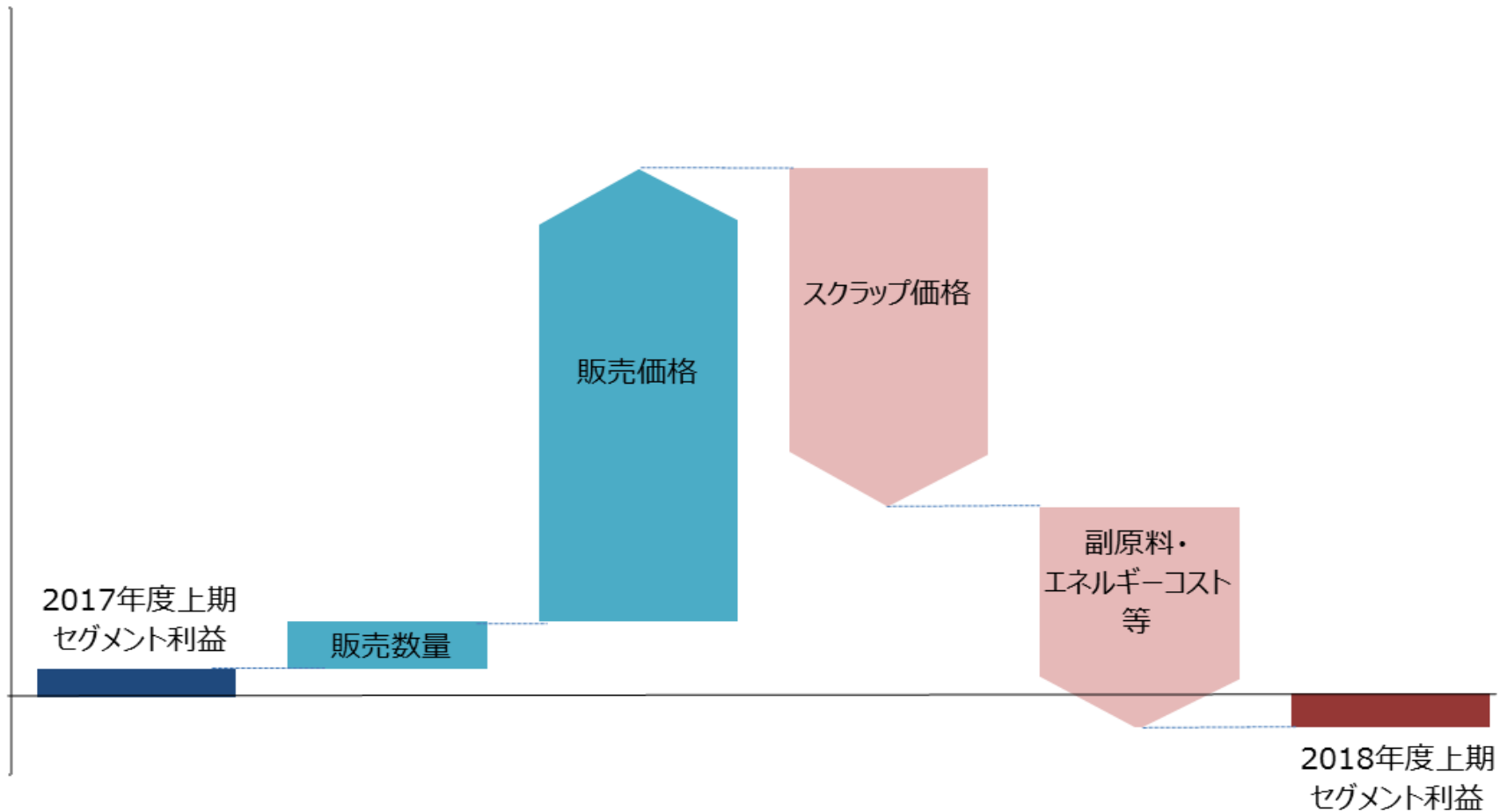
前年同期比+21.2%



前年同期比▲214.9%

鉄鋼建設資材事業 – 要因分析 –

- 鉄スクラップおよびエネルギー・副資材の価格上昇を、販売価格で吸収できず



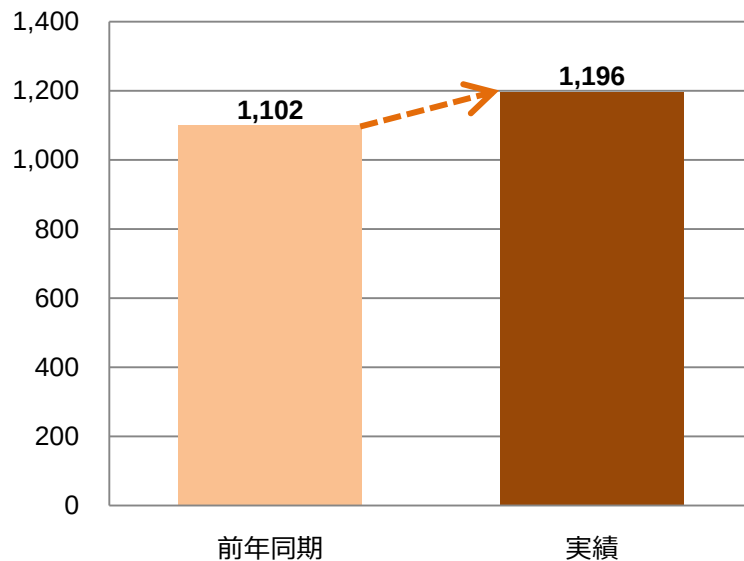
碎石砕砂・マテリアルリサイクル事業

－実績－

増収増益

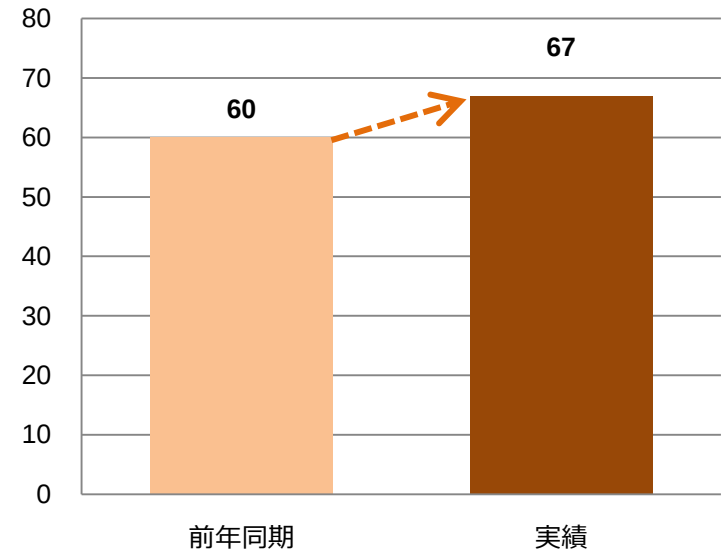
- 販売価格引き上げと新規顧客獲得による販売数量拡大

【売上高（百万円）】



前年同期比+8.5%

【セグメント利益（百万円）】

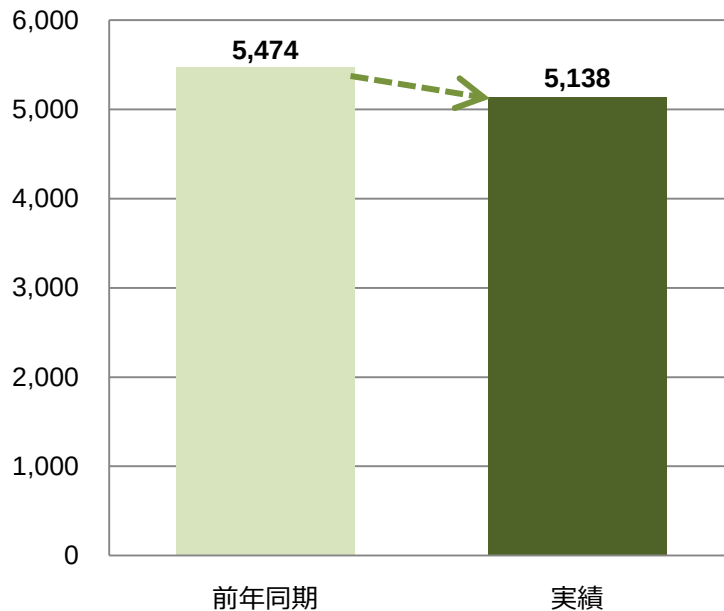


前年同期比+12.8%

減収減益

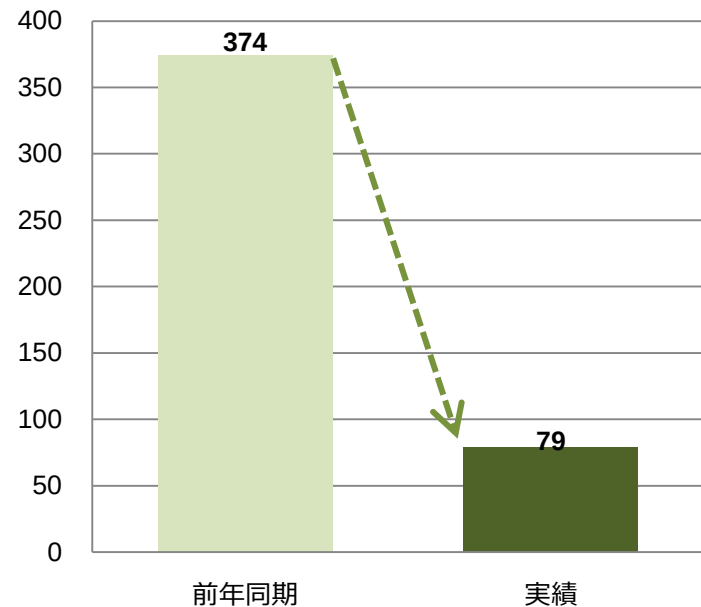
- 肥料の販売数量減少で減収減益

【売上高（百万円）】



前年同期比 ▲6.1%

【セグメント利益（百万円）】

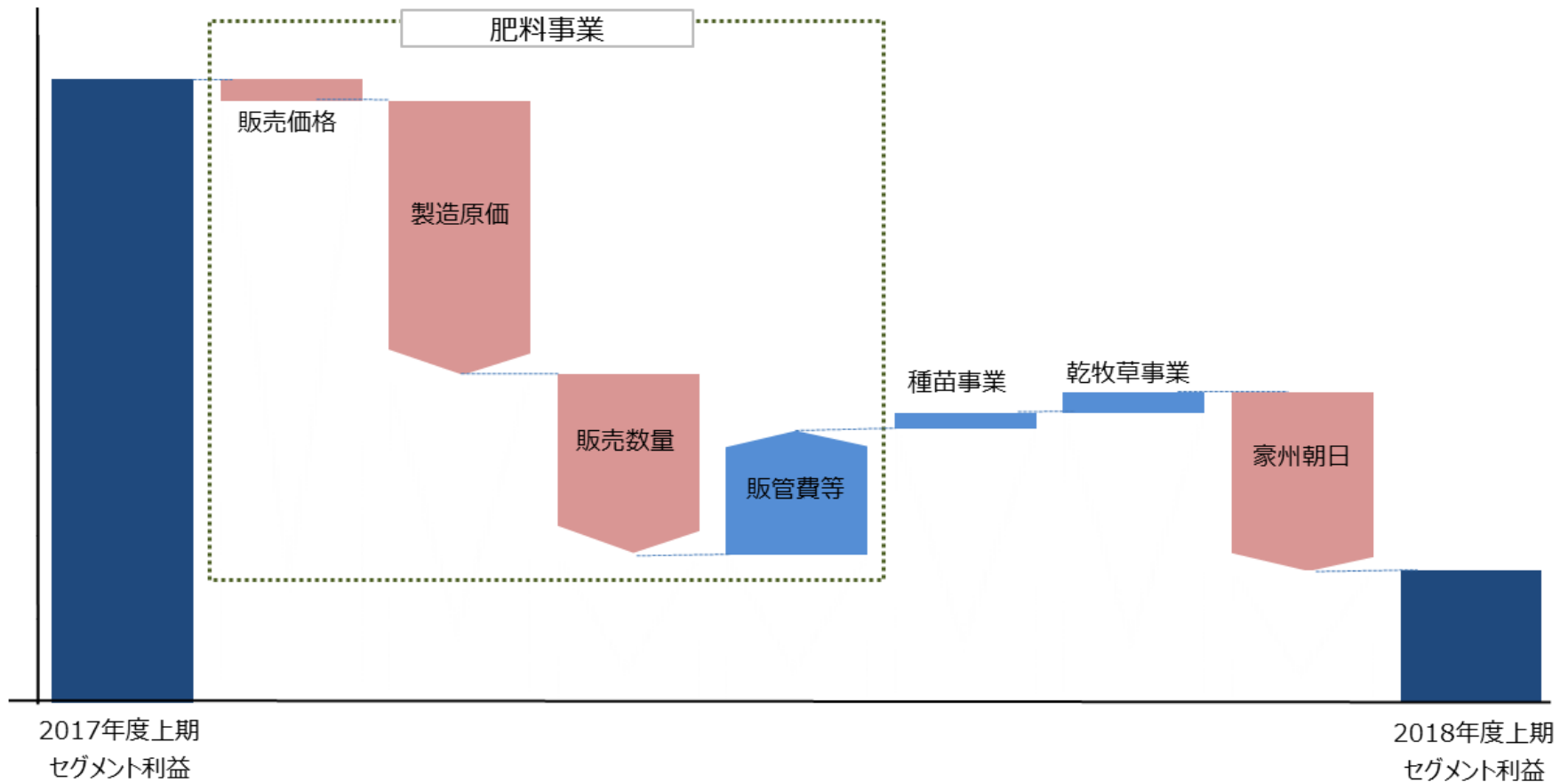


前年同期比 ▲78.8%

農業資材事業

－ 要因分析 －

- 肥料：販売数量の減少や原料価格の上昇による収益減
- 乾牧草：中国国内での価格競争により豪州朝日収益減



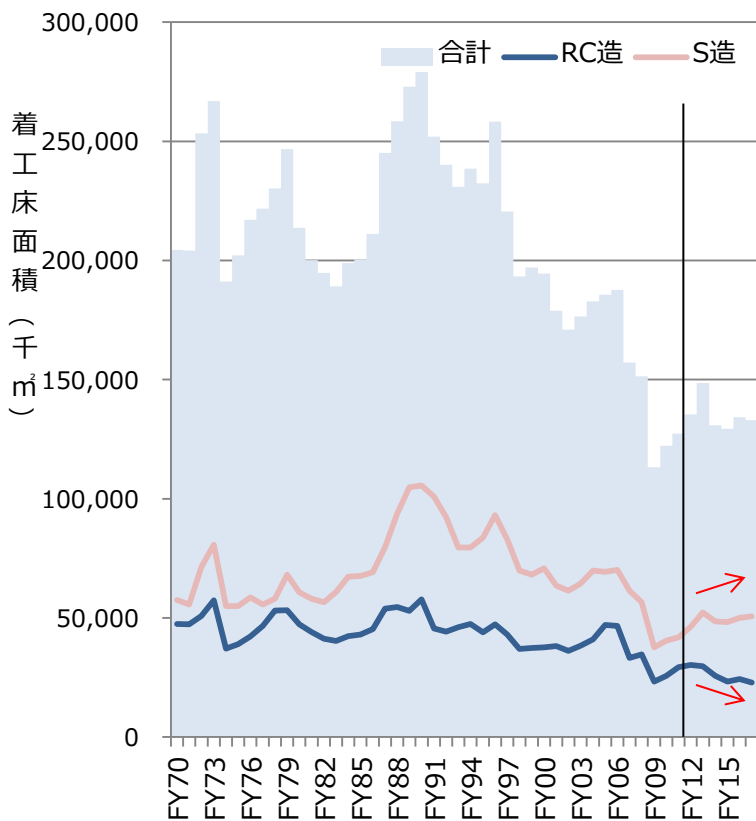
中期経営計画ASAHI2018の進捗状況

鉄鋼建設資材事業

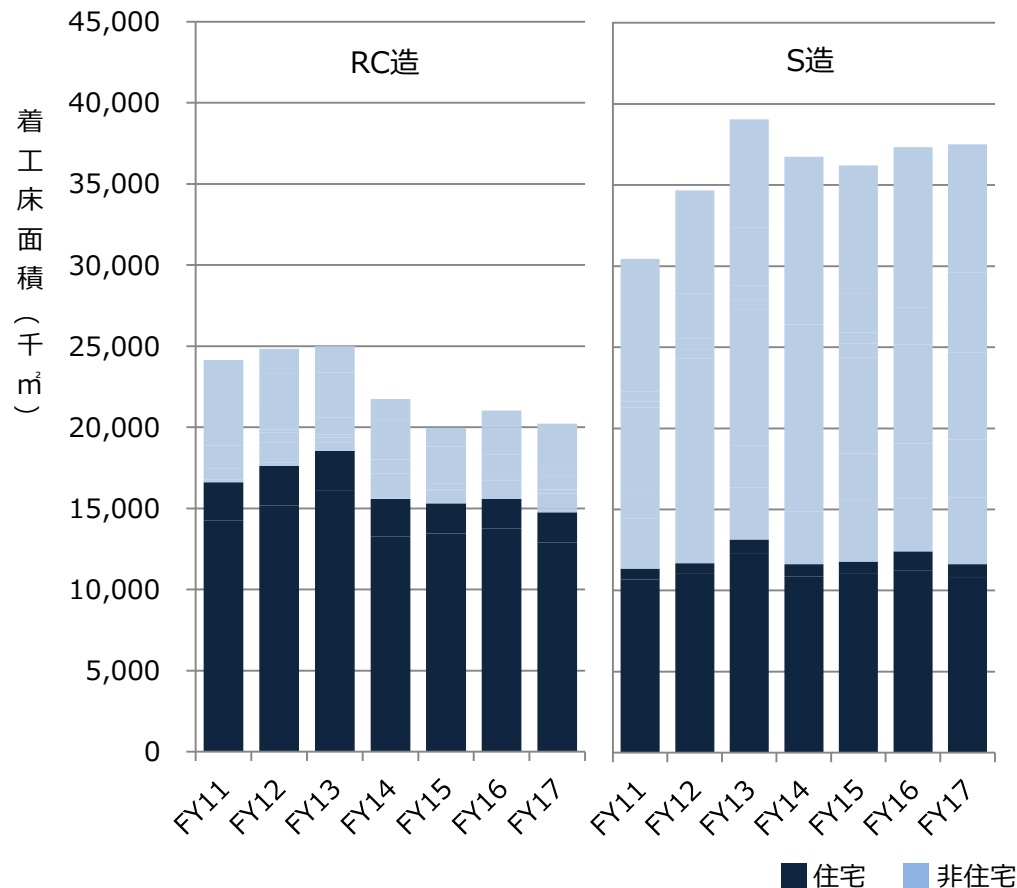
中計進捗
－外部環境変化－

- RC造→S造へのシフトが大きく進展

【建築着工床面積推移】



【用途別RC造・S造着工床面積推移】



出所 国土交通省「建築着工調査報告」

鉄鋼建設資材事業

中計進捗 －製品ポートフォリオ－

- 特殊鋼再開や構造用鋼のウェイトが拡大、製品ポートフォリオは確実に変化するも、更なるスピードアップが必要

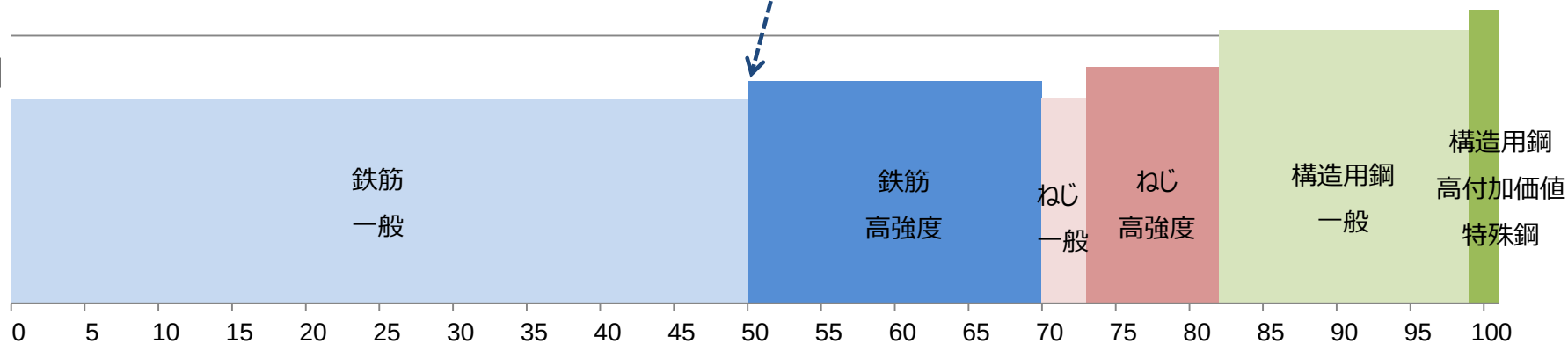
【製品構成率と販売単価比較】

0 5 10 15 20 25 30 35 40 45 50 55 60 65 70 75 80 85 90 95 100 (%)

【FY15】



【FY18】



- 打つべき施策は着実に実施。効果発現はこれから

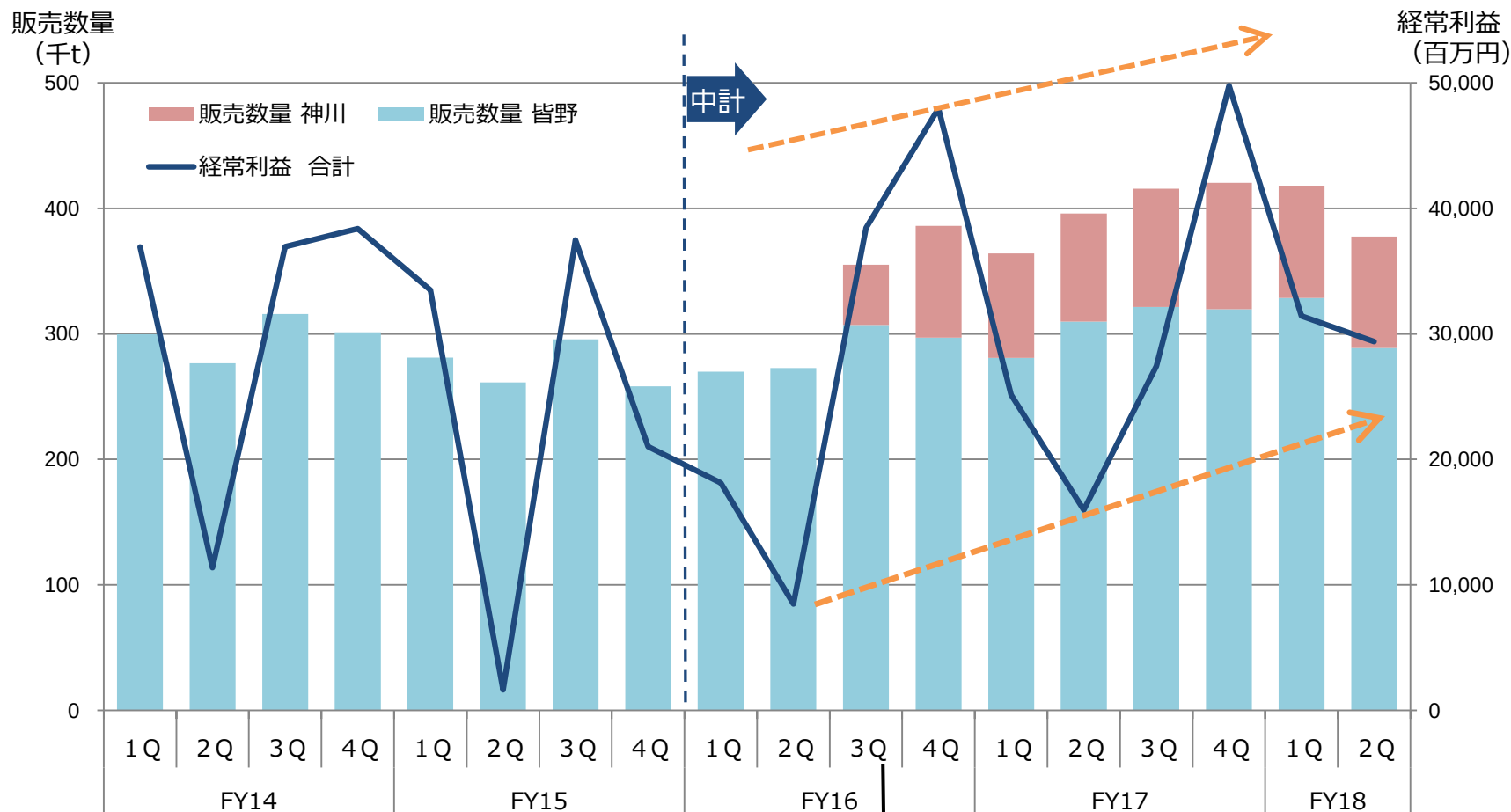
鋼種シフト	ねじ節鉄筋カラーマーキング設備導入	○	2018年8月より設備稼働
	高強度鉄筋の拡販	○	計画通りに推移
	特殊鋼販売再開	○	2017年12月より販売開始 計画以上の販売を継続
	棒精設備の整備	○	計画通りに進捗
	OEM	△	準備完了も 開始は下期にズレ
省エネ	エネルギー原単位低減	×	製品構成の変化により 効率悪化
	中期エネルギー削減プロジェクト	△	設備投資含め検討中

碎石砕砂・マテリアルサイクル事業

中計進捗
ーシェア拡大ー

- ・ 新砵区取得による数量拡大に加え、皆野の販売数量も順調に拡大
- ・ 価格の値上げ、新規開拓進め着実に収益確保

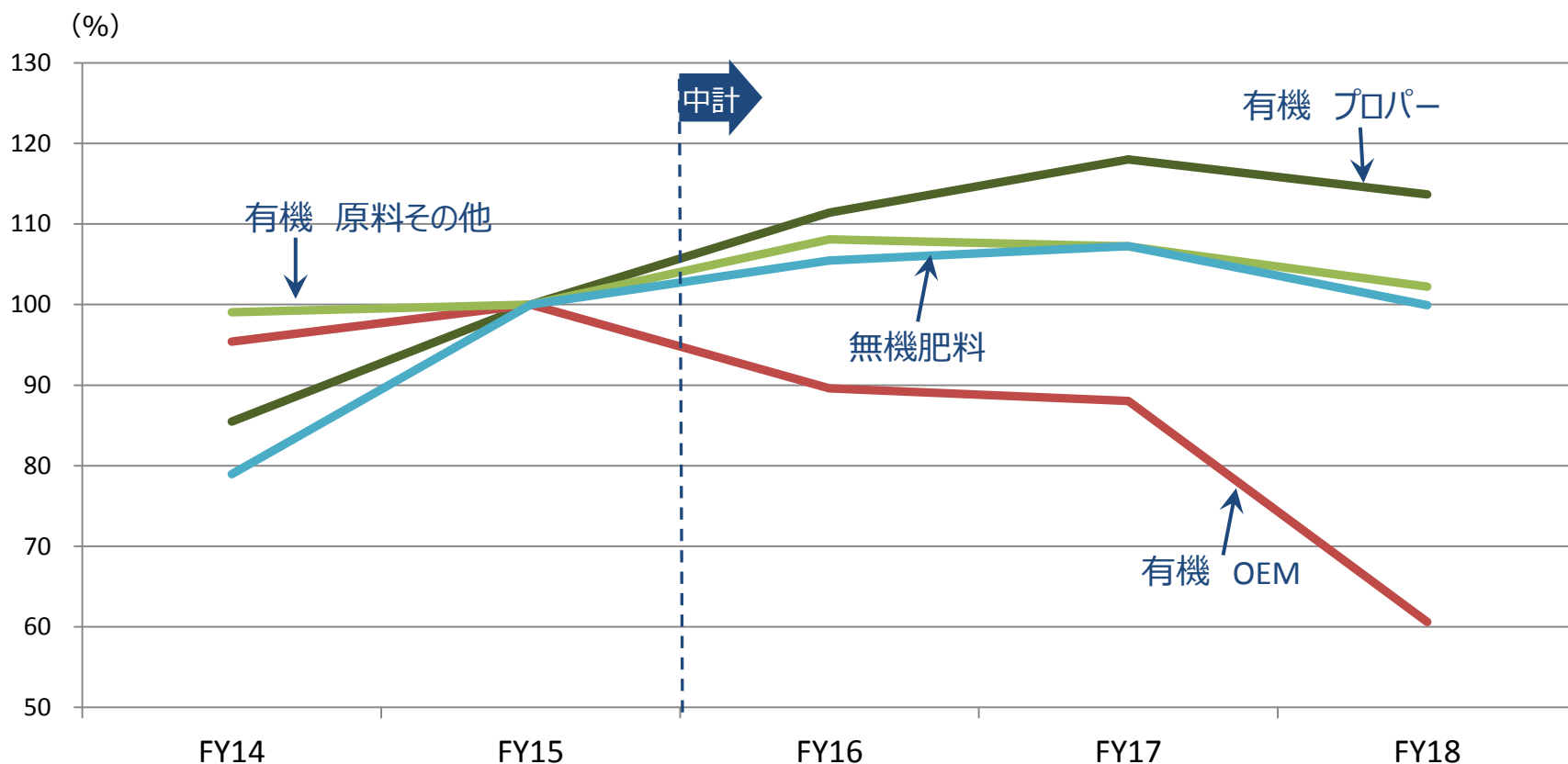
【碎石砕砂事業の販売数量及び経常利益推移】



新砵区取得

- 主力のプロパーが順調に伸びるも足元伸び悩み
- 受託生産品販売は減少

【上半期の販売数量推移(肥料)】（FY15を100とした場合の指数）



- ・ トマト、カボチャ、台木販売増加。新たにブロッコリーを販売開始
- ・ 主要施策の自社品種比率も向上

● 主要品種の販売拡大

カボチャ : 「プレミア」3品種を発売、売上拡大

大玉トマト : 新品種「有彩（ありさ）」発売

台 木 : 中国「上海恵和種業」と独占販売契約締結

	FY17実績 (FY15比)
カボチャ	276%
大玉トマト	128%
トマト台木	152%

● 新規品目の販売

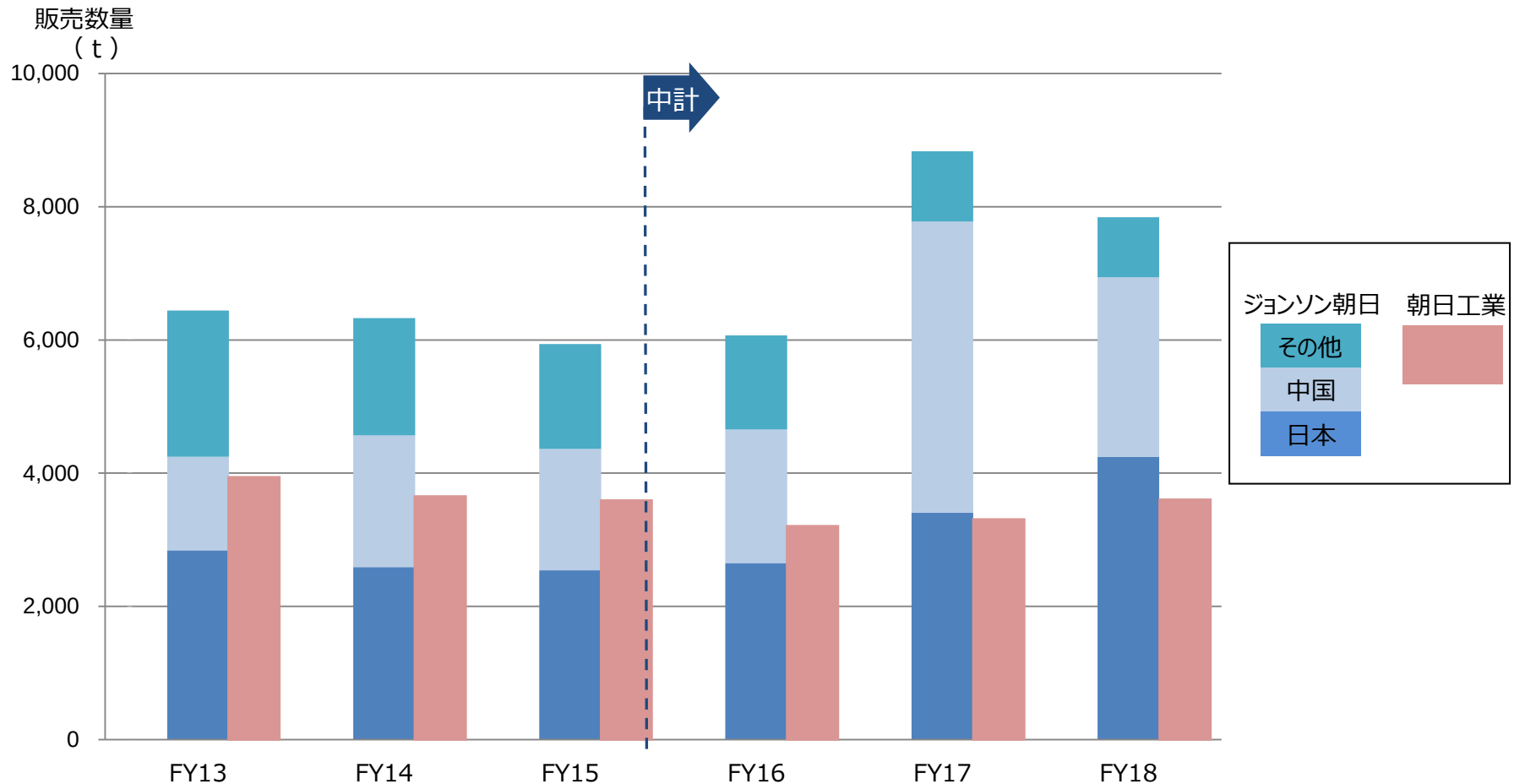
ブロッコリーの販売開始 : (株)ナコスと国内販売店契約締結 (FY17)
FY18より全国販売

自社品種比率拡大

FY15	FY17	FY18上期
38.9%	50.6%	51.4%

- 中国向け販売拡大に加え、日本向け販売数量も着実に回復

【乾牧草の販売数量推移(月平均)】



今後の取り組みについて

(1) TOB (公開買付け) 進捗状況

8月6日 合同製鐵(株)による株式の公開買付け (予定) 公表

- 主要株主への説明、応募依頼
- 主要取引先への説明

公正取引委員会の審査待ち

← 現時点

公正取引委員会審査

未定

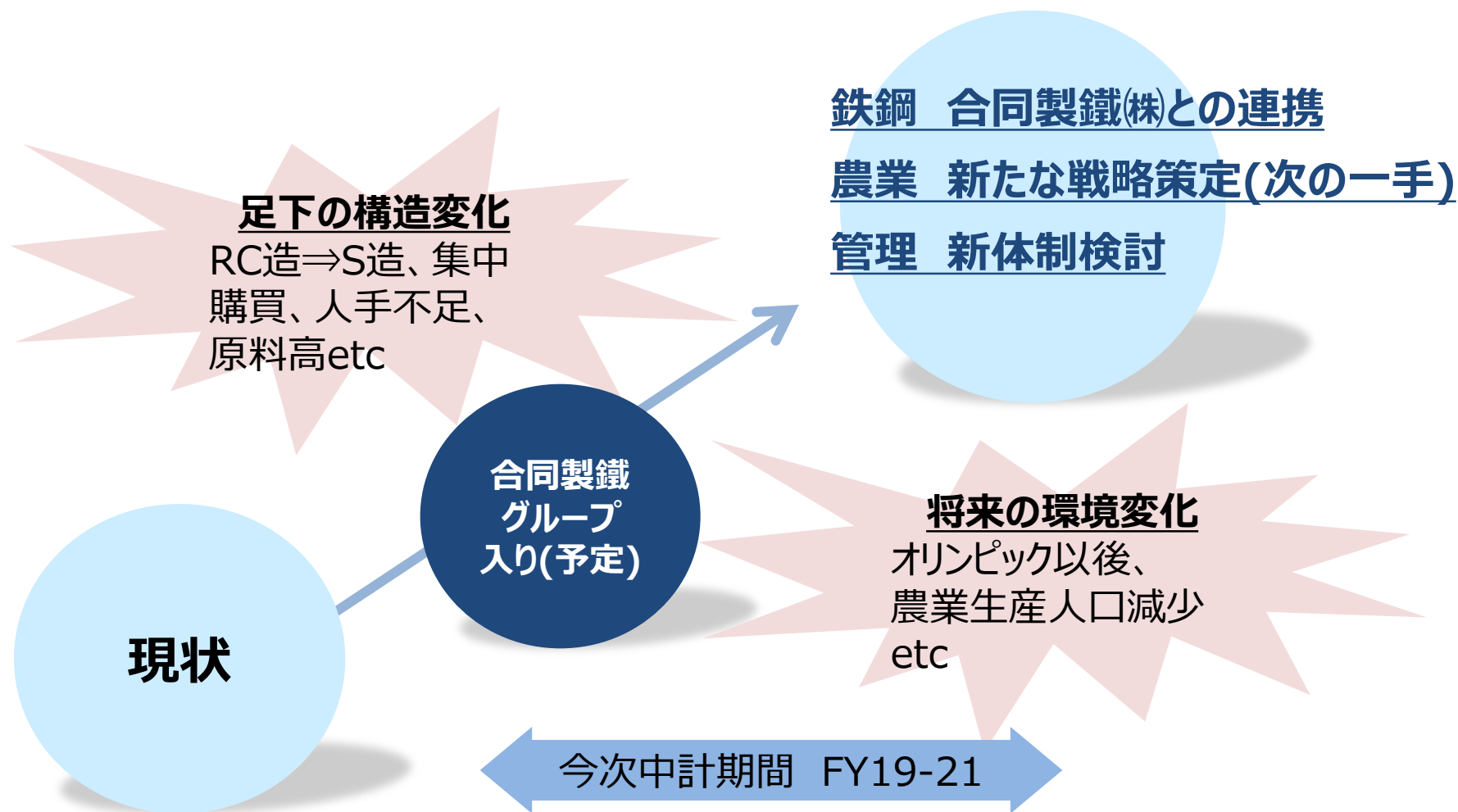
※2019年2月上旬を目処

- 公正取引委員会審査完了

公開買付け
開始

(2) 次期中期経営計画の策定

- ①足下の構造変化、②将来の環境変化、③合同製鐵(株)によるTOBを考慮したFY19-21の計画を策定中。



(3) 鉄筋契約方法の見直しおよびエキストラ改定

■ 契約方法見直し

- ✓ 原則として、契約月から3カ月以内の出荷開始
- ✓ 出荷開始後1年経過時点で契約残がある場合、別途協議を実施

■ エキストラ改定

- ✓ SD345 3,000円/ t (現状+1,000円/ t)
- ✓ SD390 6,000円/ t (現状+1,000円/ t)

時期

- ✓ 2019年1月契約分より

対象製品

- ✓ 鉄筋用棒鋼
- ✓ ねじ節鉄筋 (ネジエーコン)

2018年度通期見通し

連結通期業績見通し

(百万円)	2017年度 通期業績	2018年度 通期業績見通し
売上高	35,878	43,000
営業利益	▲ 64	1,100
経常利益	▲ 74	1,100
当期利益	▲ 362	750
経常利益率 (%)	—	2.6%
R O E (%)	—	9.4%
純有利子負債 (億円)	72	79

(注) 純有利子負債 = 有利子負債 - 現預金

2018年度通期 セグメント業績見通し

セグメント	(百万円)	上期実績	通期見通し
鉄鋼建設資材事業	売上高	12,100	26,500
	セグメント利益	▲131	1,150
砕石砕砂・ マテリアルサイクル事業	売上高	1,196	2,500
	セグメント利益	67	150
農業資材事業	売上高	5,138	13,500
	セグメント利益	79	900
連結合計	売上高	18,463	43,000
	営業利益	▲546	1,100

本資料お取扱上のご注意

- 本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。
- 本資料を作成するに当たっては、正確性を期すために慎重に行なっておりますが、完全性を保証するものではありません。
- 本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。
- 本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることがあることをご承知おきください。



2018年度上期 決算説明会

2018年11月9日



朝日工業グループ

(証券コード 5456)